

<目的> 住宅における台所器機の開発はめざましいものであるが、依然未解決のままなのがゴミ問題である。本研究は、台所ゴミの実態を把握し、処理方法に対する主婦の意識を探ることにより、これからの台所計画のための基礎資料を得ようとするものである。

<方法> ①台所ゴミの分け方を考察するため、主婦38人にアンケートを実施。分け方に迷うものなど44種のゴミを各自の方法でグルーピングしてもらった。併せて、大阪周辺の58市町村のゴミ分別指導表を収集し、行政による指導との関連を見た。②台所ゴミの実態を把握するため、301名的主婦に1ヶ月の留置アンケートを実施。台所ゴミを、生ゴミ、紙・プラスチック類、カン、ビン、の4種に分け、それぞれの収集日に重量を計測。ただし、かさが問題となる、トレイとプラスチックボトルは個数も記録。昭和63年7月より実施し272名の回収をえた（回収率90.4%）。③台所計画で実際問題になるゴミの体積を得るため一定の大きさの箱に生ゴミ、紙・プラスチック、トレイ、プラスチックボトル、カン、ビンを集め計測した。

<結果> ①行政によるゴミ分別収集は、各自治体でかなり違っている。また、主婦の台所ゴミの分け方は、各自の考えに行政指導の影響が加わり複雑なものとなっている。②各家庭におけるゴミの量の違いは、家族人数と負の相関関係にあり、家族人数が増えるに連れてゴミの量は減少する。家族構成を、9つの家族型に分けたところ、主婦の年齢が高いほうが、ゴミ量は多く、特にトレイに顕著である。住型式、主婦の職業との関連は有為差が無かった。③体積へ算定しなおすと、紙・プラスチック類が大きな割合をしめている。